

大学の世界展開力強化事業 取組概要 大阪大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアー・クアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナストラ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議、それに海外の大学を加えた全体会議を開催し、加えて教員の相互訪問も行った。コスタリカにある平和大学(国連決議で設置)を訪問し、平和大学からもコンソーシアム訪問がなされ連携体制を構築した。

〈国内連携大学会議の様子〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈インドネシア・アチエの津波博物館で体験談を聞く〉



メイン・プログラム(受入)

9月末から東南アジア連携大学より派遣された留学生10名を、大阪大学、広島大学、名桜大学で半年間受け入れるセメスター日本プログラムを実施した。

メイン・プログラム(派遣)

受入大学のセメスター開始時期に合わせるかたちで、8月から10月にかけて、大阪大学、広島大学より合計10名の学生を4ヶ月から半年(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入)

名桜大学にて、東南アジアから受け入れた学生を対象として、13日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、同プログラムにおいては基地問題をはじめとする平和学習を行った。

サブ・プログラム(派遣)

シアー・クアラ大学(インドネシア)とカンボジア・パンナストラ大学(カンボジア)にて、日本から派遣した学生を対象として、それぞれ10日間と7日間短期集中東南アジアプログラムを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に8名(留学生も含む全派遣者数は10名)、サブ・プログラム(派遣)に12名(留学生も含む全派遣者数は18名)を派遣した。

外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に10名、サブ・プログラム(受入)に12名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	6(16)	20(28)	22	22	22
学生の受入	10	22	23	23	23

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

括弧内数字は全派遣者数。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

関連科目の設置、英語及び各国語指導、セミナー開催

日本側大学ではテーマに関する科目を設置(大阪大学高度副プログラム)、英語のインフォーマルな指導強化(イングリッシュカフェ)、派遣する学生へのインドネシア語・テトゥン語・クメール語の短期指導、テーマに即したセミナーの開催を行った。

事務局設置、留学生用ハウジング提供体制、授業の英語化

代表校に設置している運営事務局を強化するとともに、国内連携大学3校にサブ・オフィスを設置し、留学受入・派遣サポート体制を強化した。また、留学生用民間アパート短期契約の体制を構築し、一部授業の英語化を図った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

英語ホームページの開設とfacebookページの開設

事業の英語ホームページを開設するとともに、facebookページの開設を行い、プログラム中にオンタイムで更新することによって事業の普及を図った。

ホームページ英語版(<http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html>)

facebook(<https://www.facebook.com/PAHSAcampus>)